

対エルサルバドル共和国 国別開発協力方針

平成 29 年 2 月

1. 当該国への開発協力のねらい

エルサルバドルは、1人当たりの GNI が 3,940 ドル（世界銀行 2015 年）であり、低所得国（LMCs）に分類される。国内の貧困率は依然として高く、特に、開発が遅れている東部地域及び農村部と都市部における貧富の格差は顕著である。また、同国は天然資源に乏しく特定産業（繊維・縫製業）に依存しており、ハリケーンや地震といった自然災害に対する脆弱性も依然として存在し、自立的・持続的な経済成長を停滞させている。加えて、国内の治安悪化による米国やメキシコへの未成年避難民の増加が中米北部 3 か国（エルサルバドル、ホンジュラス、グアテマラ）共通の社会問題となっている。

現在、同国政府は「国家開発 5 か年計画（2014-2019）」を通じ、持続可能な経済成長モデルを通じた生産性の向上につながる雇用促進、社会平等・包摂を伴う教育促進、市民の安全保障強化を優先課題として取り組んでいる。そのため、我が国が有している独自の経験と知見を活かして、開発課題の解決に資する能力開発に協力することは、世界の責任ある主要国としての責務を果たすものである。

また、同国における開発協力の実績が両国の友好関係の基盤となっている現状に鑑みると、継続的な開発協力は、二国間関係をより強固なものとしていく意義を有する。

更に、共に発展、主導、啓発するパートナーとして、中米統合に中心的役割を果たすエルサルバドルとの協働による国境を越える課題への取り組みを通じて、日本と中米諸国の協力関係の促進や同国が推進する中米統合を後押しし、国際社会の平和と安定及び繁栄の確保に一層積極的に貢献する。

2. 我が国の ODA の基本方針（大目標）：自立的かつ持続的な開発の促進

エルサルバドル政府の取り組んでいる重要開発課題のうち、我が国は、同国の自立的かつ持続的な開発を促進するため、経済の活性化と雇用拡大を中核として支援を行うとともに、防災・環境保全に対する同国の取組への支援にも努める。

3. 重点分野（中目標）

（1）経済の活性化と雇用拡大

エルサルバドルの東部地域は、地理的に中米の中心に位置し、3か国（エルサルバドル、ホンジュラス、ニカラグア）にまたがるフォンセカ湾にも面し、交通・物流の要衝として重要な位置を占めているが、長年の内戦の影響で開発が遅れている。特定の資源や主要産業を持たない同国の経済を活性化し、ひいては中米全域の経済成長を促すには、産業基盤を整備し物流機能を向上させることが重要である。このため、「東部地域開発マスタープラン」の改定版の実現を支援すべく、これまで我が国が支援した空港、港湾、橋などの機能を最大限に発揮するための人材育成等を行う。また、地

場産業振興や、農業製品の国内販売の促進に向けた支援を行うことで、地域産業の育成並びに雇用の創出を図る。

(2) 持続的開発のための防災・環境保全

エルサルバドルでは、特に近年気候変動の影響により風水害・土砂災害が多発し、自然災害への脆弱性の克服が課題となっている。我が国は、防災教育を中心とした「コミュニティ防災」と同国防災担当部門間の「組織連携」の両視点に立ち、我が国の知見を生かした防災能力の強化に向けた協力を行うとともに、気候変動対策としてインフラの強靱化、省エネルギー促進、湿地保全など、環境保全に向けた取組を支援する。

(3) 包摂的な開発の促進

エルサルバドルでは、全ての人々が恩恵を受ける開発を進めている。教育機会の均等化を進める中で、基礎教育水準の改善、保健分野における人材育成・質の向上が課題となっている。我が国は、基礎教育の普及、教育水準の改善とともに、保健分野の人材育成を継続して支援する。

また、中米3か国のエルサルバドル、グアテマラ、ホンジュラスでは青少年凶悪犯罪集団（マラス）による犯罪が深刻化し、同国においても市民生活の安全確保が政府の最重要課題の一つとなっており、開発の阻害要因となっているため、我が国は、市民の安全確保の観点から、地域警察制度の普及・促進を支援する。

4. 留意事項

エルサルバドルを含む中米地域では、地域統合に向けた取り組みが進められており、当国には中米統合機構（SICA）事務総局が存在する。我が国として中米統合促進に留意した IDB などとの援助協調の可能性も念頭におきつつ、地域協力を推進していく。

（了）

別紙： 事業展開計画